

ふ え き りゅうこう 「不易流行」－教育長だより－ No.1

『**不易**を知らざれば基^{もと}立ちがたく、**流行**を知らざれば風^{ふう}新たならず』

意味は、「時代を経ても変わることのない本質的な事柄を知らなければ基礎はできあがらず、変化を知らなければ展開を産み出すことはできない。」ということのようです。

今から約30年前に、私が勤務していた市の教育長から、異動の時にいただいた色紙に書かれていた言葉、それが「不易流行」でした。私は、家に持ち帰り、「せっかくいただいたのだから。」と、しばらくは私の部屋の本箱の上に意味もわからずに飾っていました。

実は、最近読んだ本（「信頼される校長の条件」：教育開発研究所）のはじめ（前書き）に、上掲した先人（「奥の細道」の旅を通じて会得した松尾芭蕉）の言葉（俳諧理念の一つ）として紹介されていました。

かつて、私が中学校の校長をしていた時にも、学校だよりはこの「不易流行」について私見を交えて調べたことを紹介したことがありました。それは、「『不易』は、変わらないもの。どんなに世の中が変化し状況が変わっても絶対に変わらないもの、変えてはいけないもの。」一方、「『流行』は、変わるもの。世の中の変化に従って変わっていくもの、あるいは変えてゆかなければならないもの。」一見すると、相反するように感じてしまいましたが、もう少しこの意味を調べると、「『流行』に惑わされず、『不易』を問い、その時々最適な『流行』を使いこなし、どんどんこれを変えていく。」さらに、「テクノロジーの発展が急激に進む今の時代にあっては、あらためて、この基本に立ち返る必要がある。…」なるほど、両者の根本はひとつのようです。

さて、この4月に本市の教育長に就任して3か月が経過しました。前任の教育長からの本市の教育への思いを引き継ぎながらも、さらに、この教育における「不易流行」を問い続ける（見極める）こと、そして、特に、子どもたちには、学校・園が※いじめのない「安心・安全な居場所」であることはもちろん、「ふるさと野洲に愛着をもち、たくましく『生きる力』の育成」をめざす本市の教育を推進することが私の大きな使命であると認識しました。

そこで、次号からは、この「不易流行」をタイトルにして、その時々の子どもの様子や声（作文）からの気づき、考えなどを書きたいと思いますので、ご一読いただきますようよろしくお願いします。

※「令和3年度・令和4年度における市内小学校の教員によるいじめにかかる報告書」に基づいた令和5年度の取組と成果について、令和6年3月19日付けで、野洲市教育委員会と学校が取り組んできたこと、今後取り組むことをホームページに掲載しました。